

7 その他全般的事項

<文学研究科 仏教学専攻（D）>

（１）設置計画変更事項等

【該当なし】

（２）教員の資質の維持向上の方策（FD活動含む）

① 実施体制

- a 委員会の設置状況 教育推進機構会議（平成24年4月1日設置）
- b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）平成28年度14回開催。 教員出席者数（延べ）125名。
- c 委員会の審議事項等
 - 1) 教育課程の編成に関する事項
 - 2) 教育開発・改善に関する事項
 - 3) 宗教教育センターに関する事項
 - 4) 国際交流センターに関する事項
 - 5) 教育推進機構の人事（実習指導講師，外国人契約講師，専門員等）に関する事項
 - 6) 教育推進機構の事業計画および予算編成に関する事項
 - 7) 教育推進機構の自己点検・評価に関する事項
 - 8) 教育推進機構に関連する諸規程の改廃に関する事項
 - 9) その他教育推進機構に関する必要な事項

② 実施状況

- a 実施内容
 - 1) 学生による授業アンケート
 - 2) 教員研修会の開催
 - 3) 研修会等への参加支援
 - 4) 研修会参加報告書の提出
 - 5) e-Learningの推進
 - 6) 基礎学力調査
 - 7) 英語基礎力調査
 - 8) 入学前教育
 - 9) 刊行物の発行
 - 10) TAの配置
- b 実施方法
 - 1) 全学規模で各期末に実施。対象は、全教員（専任・非常勤）。
 - 2) 全学の専任教員を対象に「今、求められる成績評価とは」をテーマに実施。
 - 3) 専任教員を対象に学外のFD関連研修会等についての情報発信と参加支援。
 - 4) FD関連研修会に参加した教職員より研修会内容の報告、情報共有。
 - 5) 事前事後学習の充実、単位の実質化に向けたe-Learning利用の推進。
 - 6) 1回生・2回生・3回生の基礎学力調査とアンケートによる学習実態調査の実施。
 - 7) 入学時および2回生進級時における英語基礎力調査の実施。
 - 8) 入学予定者に対する授業体験や在学生との懇談等の実施。
 - 9) 各取組の成果・分析結果を取りまとめ、刊行物として発行。
- c 開催状況（教員の参加状況含む）
 - 1) 「③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況」参照
 - 2) 「今、求められる成績評価とは」94名
 - 3) 学外研修会参加者：11名（延べ）
 - 4) 学外研修会に参加した教職員より研修会内容の報告、情報共有。11件（延べ）
 - 5) 春学期：利用教員99名 227講座 受講者10,592名（延べ）
秋学期：利用教員118名 220講座 受講者11,025名（延べ）

6) 1回生・2回生・3回生の基礎学力調査とアンケートによる学習実態調査の実施。

【1回生】受験者数：1,659名 受験率：99.3%

【2回生】受験者数：1,102名 受験率：66.3%

【3回生】受験者数：636名 受験率：38.9%

7) 入学時および2回生進級時における英語基礎力調査の実施。

【1回生】受験者数：1,660名 受験率：99.3%

【2回生】受験者数：1,393名 受験率：83.0%

8) 入学予定者に対する授業体験や在学生との懇談等の実施。

9) 各取組の成果・分析結果を取りまとめ、刊行物として発行。

「2016年度『基礎学力調査』結果報告」

「2015年度『FD研究会』『FD関連研修会 参加支援』報告書」

「2015年度授業アンケート結果報告集（通学課程・通信教育課程）」

10) 演習科目における教育内容の充実に向け、大学院生をTAとして配置。院生へのプレFD。

【TA登録者数】14名 【講座数】32講座

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

1) 教育推進機構会議において、授業アンケート集計結果の分析を行い現状把握を行った。

また、分析結果は刊行物にて学内外へ公表。

2) 教員研修会における取組内容、開催内容は刊行物にて学内外へ公表し、情報共有を図っている。

また、参加できなかった教員には動画を配信している。

3) 学外のFD関連研修会の案内および研修会報告を刊行物等で学内外へ公表した。

4) 参加した学外のFD関連研修会についての報告書を作成し、学内で報告、共有化を図り本学FDへのフィードバックを行った。

5) 利用説明会を開催し、新規利用者の拡大。

6) 回生毎に調査の結果分析を行い、学内向けに結果報告会の開催、刊行物による情報共有を図った。

また、1回生に関しては分析結果に基づき入門ゼミの授業改善の材料としている。

7) 入学時・2回生進級時の英語基礎力調査と結果の分析を行い、その結果に基づく習熟度別クラス編成による英語授業を行った。

8) 早期に合格が決定する入学者に対し、学部学科毎に授業体験を実施。また、スポーツ強化・課外活動入試、法人系列校の入学者向けに学生生活の目的を明確化させるワークショップの開催。

9) 刊行物による全学的な情報共有ならびに意識の醸成。

10) TA配置をおこなった講義については、「ティーチング・アシスタント実績報告書」の提出を義務付け、その成果と改善点について検証をおこなっている。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

1) 春学期 実施教員数(実施率)：専任189名(95.0%)、非常勤321名(78.1%)

実施講座数(実施率)：1,090科目(79.7%) 実施時期：平成28年7月11日(月)～7月23日(土)

秋学期 実施教員数(実施率)：専任182名(93.3%)、非常勤296名(79.6%)

実施講座数(実施率)：1,003講座(71.1%) 実施時期：平成29年1月16日(月)～平成29年1月28日(土)

b 教員や学生への公開状況、方法等

全体の集計結果の分析を行い、結果報告会を開催し現状把握を行なった。各学部学科へ学科毎の分析結果を返却し、現状把握およびカリキュラム再編の検討材料として提供した。

総合的な分析結果は刊行物にて学内外へ公表、教員の個人別の結果については学内のみ公表した。

(3) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

(別紙のとおり)

② 自己点検・評価報告書

a 公表(予定)時期

I. 平成26年3月1日公表 『佛教大学自己点検・評価報告書2012』(大学基準協会認証評価受審用)

II. 平成29年3月1日公表 『佛教大学教育研究活動年報2014 2015』

b 公表方法

I. ホームページ上に公開し、大学図書館に配架(大学基準協会からの評価結果を含む)。

II. 大学図書館に配架。

③ 認証評価を受ける計画

・平成31年度に公益財団法人大学基準協会の認証評価を受審する旨の学内決定を行った。

(4) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書

a ホームページに公表の有無 (☒ 有 ・ ☐ 無)

b 公表時期(未公表の場合は予定時期) (平成 29 年 6 月 30 日)

文学研究科 仏教学専攻 (D)

(別紙) 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

本大学院文学研究科仏教学専攻 (D) (入学定員 3 名) は、インド・中国・日本を中心とする東アジア世界に展開した仏教思想及びその文化を広く究明することを目的とし、仏教の原理の究明とその受容の実態とを有機的に関連づけ、仏教思想の体系的かつ総合的研究を行うことを目指して、平成 27 年 4 月に開設した。また、仏教思想の基礎知識を身につけるとともに、専門の研究領域において独自の研究を深めていくことのできる人材を養成すること、優れた浄土宗教師 (浄土宗僧侶) を育成すること、高齢化の進む現代において、如何に生きるかという人生の目的を考えるための一助となる仏教思想の研究に基づいて現代における仏教思想の果たすべき役割を明らかにし、現代社会へ積極的に貢献することのできる人材を育成すること等を目的としている。

以上の設置の趣旨、目的のもとに学生募集を開始し、平成 29 年 4 月には第 3 期生を受け入れ、完成年度を迎えるに至った。

1 教育課程の内容・方法等

本仏教学専攻博士後期課程の教育課程編成方針は、3年間6セメスターそれぞれに研究指導科目を配置し、セメスターごとに段階的に履修することにより、体系的な理解力の深化、研究方法の確立を目指している。また、学生の専攻分野に最も明るい指導教員を1名と近接領域への視野と知識を確保するために領域の異なる複数教員とによる研究指導を行うなど特色ある研究指導体制をとっている。

2 教員編成の考え方等

博士後期課程に関しては、本仏教学専攻の博士後期課程「仏教学研究指導演習Ⅰ～Ⅵ」を担当する専任教員の主たる研究分野である浄土学、仏教学、仏教文化において高度な専門的知識を総合的に提供し、各領域における研究の現状や課題の正確な把握を目指し、また特定の専門領域だけに限定されず、高度な専門的知識を獲得することも重視している。

3 学生の受け入れ

設置届出が受理された平成26年9月以降、広報・募集を開始し、1年目は、志願者3名、合格者3名、入学者3名となり、2年目は、志願者3名、合格者3名、入学者3名となった。そして完成年度なる3年目は、志願者が0名の結果となった。

4 総括

本専攻は、既存の浄土学専攻、仏教学専攻、仏教文化専攻を改組改編して設置したものである。これは、上述したように、受講生が主とする研究領域以外の研究領域を自

在に修得することを可能としたことにより、学際的な研究視座を深め、より高度な仏教研究ができることを特色とするものである。また、学生の受け入れについては、既存の3専攻（D）の平成26年度の入試における入学定員の充足率が浄土学専攻：33.3%、仏教学専攻：60.0%、仏教文化専攻：33.3%といずれも低い状況であったが、今回の改組改編により入学定員を見直した結果、平成27年度入試における仏教学専攻（D）の入学定員充足率は（D）は100.0%、平成28年度入試においては（D）の入学定員充足率は100%、となり、改善された。しかし、平成29年度入試においては（D）の志願者は0名であった。これは、大学院博士後期課程という高度な専門知識を持ち、創造性豊かな優れた研究能力を持つ研究者または確かな教育能力と研究能力を兼ね備えた教育者を養成する課程への進学の高難しさの側面が影響しているものと分析されることから、今後は、修士課程における指導と連携した研究者・教育者育成と入試広報に取り組む所存である。

以上のように、本専攻は、設置の趣旨・目的に合致しており、所期の目的は達成できていると言える。なお、今後は「佛教大学大学院院学則第1条の2」に基づき、大学評価委員会等において定期的に自己点検・評価を実施し、公表することとしている。

以上、現時点においての所見であり、他については設置届出時の計画どおりである。